令和3年度 学校運営連絡協議会 実施報告書

1 組織

- (1) 東京都立芦花高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成
主幹教諭(教務主任)＝事務局長、教務部3名 計4名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任、
1年次学年主任、2年次学年主任、3年次学年主任 計9名
- (4) 協議委員の構成
学識経験者(元都立高等学校長)、近隣中学校長、一般社団法人 子どもの成長と環境を考える会代表
理事、警視庁成城警察署生活安全課少年第一係長、母体校(都立千歳高等学校)同窓会代表、本校同
窓会代表、地域住民代表、芦花の会(本校PTA組織)代表 計8名

2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和3年7月25日(金)午後4時～午後5時 本校大会議室
内部委員9名、協議委員6名
校長挨拶、協議委員委嘱、委員紹介、内部委員紹介、学校運営連絡協議会の趣旨説明、
教育活動の報告、意見交換、事務連絡
 - 第2回 令和3年11月19日(金)午後4時～午後4時55分 本校大会議室
内部委員9名、協議委員6名
校長挨拶、教育活動の報告、学校評価アンケート項目の検討、意見交換、事務連絡
 - 第3回 令和4年2月10日(木)(書面開催)
内部委員9名、協議委員8名
教育活動の報告、学校評価アンケート集計結果・分析及び考察、事務連絡
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和3年11月19日(金)午後3時30分～午後3時45分 本校小会議室
内部委員2名、協議委員1名
学校評価アンケートの基本方針の確認、評価項目及び実施方法の検討
 - 第2回 新型コロナウイルス感染症による「まん延防止等重点措置」発出中のため開催せず

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

- (1) 学校評価の観点
 - ・本校の教育活動に対する満足度、理解度及び情報発信の取組について把握・分析する。
 - ・生徒、保護者、教員の回答から、教育活動の成果と課題を把握・分析する。
 - ・自由意見欄の設定により、意見を具体的に把握する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・回収率
 - ・12月 生徒 対象：824人 回収：761人 回収率：92%

- ・ 12月 保護者 対象：824人 回収：702人 回収率：85%
- ・ 12月 教職員 対象：51人 回収：51人 回収率：100%

(3) 主な評価項目

- ・ 前年度と比較するためにアンケート項目の変更は行わなかったが、昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった学校行事関係(体育祭、けやき祭)の設問事項を復活させた。学習指導4項目、進路指導4項目、生活指導5項目、特別活動2項目、教育環境2項目、広報活動1項目、学校運営1項目(ライフ・ワーク・バランス)、学校満足度1項目の20項目を設定し、「そう思う」、「ややそう思う」、「あまりそう思わない」、「そう思わない」の中から選択する形式で行った。

(4) 評価結果の概要

※ 生徒・保護者・教員の肯定的回答の比較

「そう思う」、「ややそう思う」を肯定的回答として集計を行った。

ア) 学習指導

- 1 学校は、生徒の進路希望実現に必要な学力を育むレベルの授業を行っている。
生徒：89.1% 保護者：82.1% 教員：96.1%
- 2 学校は、生徒が授業内容を十分に理解できるよう指導している。
生徒：84.9% 保護者：75.5% 教員：100%
- 3 学校は、生徒の学力を定着・向上させるため、指導方法や小テスト、自宅学習課題、週末課題等を工夫している。
生徒：85.1% 保護者：73.9% 教員：88.3%
- 4 学校は、土曜日や夏季休業日中の講習の充実に努めている。
生徒：78.3% 保護者：56.1% 教員：95.1%

イ) 進路指導

- 5 学校は、キャリア教育、進路ガイダンス等を通して、生徒が自分の進路について主体的に考えられるよう指導している。
生徒：93.0% 保護者：84.1% 教員：98.0%
- 6 学校は、進路相談や個人面談、三者面談の実施、履修指導等、生徒の進路希望に応じたきめ細かな指導を行っている。
生徒：86.5% 保護者：64.9% 教員：100%
- 7 学校は、模擬試験や上級学校説明会の実施、進路関係図書の整備等を通して、進路希望実現に必要な情報を提供している。
生徒：89.2% 保護者：73.0% 教員：96.1%
- 8 学校は、自習室、ラウンジ等の自学自習スペースの設置等、生徒の進路希望実現のための環境を整えている。
生徒：93.5% 保護者：88.0% 教員：98.0%

ウ) 生活指導

- 9 学校は、挨拶励行や時間厳守に向けた指導を行っている。
生徒：76.6% 保護者：78.5% 教員：72.5%
- 10 教員や養護教諭、スクールカウンセラーによる悩み相談等、学校の相談機能は充実している。
生徒：86.2% 保護者：74.8% 教員：96.1%
- 11 学校は、年3回の生徒アンケート実施等を通じて、いじめの早期発見・未然防止に取り組んでいる。

生徒：88.1% 保護者：80.7% 教員：98.0%

12 学校は、体罰・暴言のない教育活動を行っている。

生徒：96.2% 保護者：91.6% 教員：98.0%

13 学校は、避難訓練、安全講話の実施を通して、非常災害時等の対応について指導している。

生徒：82.1% 保護者：81.2% 教員：88.2%

エ) 特別活動

14 学校行事（体育祭、けやき祭）は充実している。

生徒：79.4% 保護者：62.9% 教員：86.3%

15 部活動は活発に行われている。

生徒：89.2% 保護者：76.1% 教員：92.2%

オ) 教育環境

16 学校の施設・設備は充実している。

生徒：90.3% 保護者：89.4% 教員：90.3%

17 生徒は、校内美化に努めている。

生徒：76.1% 保護者：81.7% 教員：72.5%

カ) 広報活動

18 学校は、ホームページや授業公開を通して、教育活動の様子を保護者や地域に積極的に公開している。

生徒：86.4% 保護者：78.2% 教員：98.1%

キ) 学校運営

19 学校は、業務の効率化を図り、教職員のライフ・ワーク・バランスの実現を推進している。

生徒：81.6% 保護者：72.2% 教員：35.3%

ク) 学校満足度

20 生徒は、本校に入学して満足している。

生徒：88.3% 保護者：88.8% 教員：92.2%

(5) 評価結果の分析・考察

ア) 学習指導

授業内容や指導方法についての教員と生徒・保護者との肯定的回答の差を縮めるためには、教員が、授業の達成目標を生徒に明確に示し、学習内容の振り返りを確実に実施させること、保護者に対して学力向上を図るための取組を今まで以上に発信することが必要である。自宅学習課題、週末課題等や講習については、生徒・保護者・教員三者の肯定的な回答数値が昨年度と比較して上昇していることから、ここ数年の学力を定着・向上させるための取組や夏季休業日中の1・2年次生対象の学力向上講習、3年次生対象の予備校講師による講習が定着してきたと考える。

イ) 進路指導

教員から生徒への情報発信は十分に行っているが、今後は保護者への情報提供や三者面談の実施等、具体的な方策を検討する必要がある。自学自習スペースの設置等については、十分な学習場所や時間を提供することで勉強同好会の活動が活性化し、放課後や週休日等の校内での学習が定着している。また、3年次生が学習している姿を目にする1・2年次生にもその姿勢が浸透していることは成果である。

ウ) 生活指導

挨拶励行や時間厳守についての項目は、他の項目と比較して教員と生徒・保護者の差が少ないが、肯定的回答の数値が高くないことから、指導を強化する必要がある。今年度は、生徒会役員

による挨拶運動を実施した。また、今年度もコロナ禍における生徒の心身の健康の保持増進のため、スクールカウンセラーのカウンセリング日数を追加するなど、相談機能の充実・強化を図ってきた。生徒及び保護者と教員の肯定的回答の数値に差は見られるが、昨年度と比較して肯定的回答の数値に大きな開きはなかった。いじめの早期発見・未然防止、体罰等のない学校づくりを推進していくため、次年度もアンケート調査等を定期的実施する。防災教育については、今年度は密を避けるため放送による避難訓練となったが、次年度は例年のように実践的な訓練を実施し、防災意識の向上に努める。

エ) 特別活動

学校行事（体育祭、けやき祭）についての肯定的な回答は、生徒・保護者とも高くはなかったが、コロナ禍の影響で、各行事の実実施計画も二転三転し、その中でも工夫を凝らして実施できたことは、集団への帰属意識や仲間との連帯感を育む上で効果があったと考える。部活動についても、生徒・保護者の肯定的な回答が昨年度と比較して減少傾向にあり、学校行事同様、新型コロナウイルス感染症の影響で制限されたことが大きい。

オ) 教育環境

学校の施設・設備についての肯定的回答の数値は、生徒・保護者・教員とも高い。それと比較して、校内美化に関しては肯定的数値が低い。よりよい学習環境を維持するためにも、施設・設備の改善や校内美化の強化に努めていく必要がある。

カ) 広報活動

三者ともに肯定的回答の数値は高く、昨年度の数値と大きな差は見られなかった。ホームページの充実が、保護者や地域の方々、また、中学生やその保護者への情報提供となり、本校の教育活動への理解が深まり、入学者選抜においても安定した応募倍率を維持することができている。

今後も継続して情報発信をしていく。

キ) 学校運営

教員の肯定的な数値が40%を下回っている。新型コロナウイルス感染症対策に伴う業務の変更や増加等、心身ともに負担が加わったことが原因であると考えられる。次年度は、今年度の取組を生かし、業務の効率化を図っていく。

ク) 学校満足度

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、今年度も例年とは大きく異なる学校生活となったが、生徒・保護者ともに約90%という肯定的回答があった。この数値を次年度への期待値とも捉え、今年度のコロナ禍における取組から得られた知見を生かし、教育活動の更なる充実を目指して組織的に取り組んでいく。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

本校の教育活動についての意見交換と、学校評価アンケート結果についての分析や考察により、学校の課題と改善策の方向性が明確になった。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

学習指導や進路指導に関する保護者への情報発信、また、生活指導における挨拶励行や時間厳守、校内美化についての指導強化の必要性等課題が明確になった。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動改善事項

(1) 学習指導

- ・模試分析会等の校内研修を活用して教員間の情報共有を行い、更なる授業改善へつなげる。
- ・自宅学習用課題や自学自習スペース、生徒が授業以外で学ぶ環境を整え、学びに向かう姿勢を育成するとともに、保護者への情報発信を強化する。
- ・生徒のニーズに応えられるよう、朝学習や長期休業日中の講習を充実させる。

(2) 進路指導

- ・大学による出前授業、上級学校説明会、大学訪問等を充実させ、生徒の進路意識の啓発に努めるとともに、保護者への情報発信を強化する。
- ・志望校検討会、出願指導会を充実させ、第一希望実現に向けての組織的な体制を構築するとともに個に応じた指導の充実に努める。

(3) 生活指導

- ・生活安全、交通安全、災害安全について意識の向上を図り、危機を回避する実践的な力を身に付けさせる。
- ・学校が安心して過ごすことのできる居場所となるよう、教育相談機能のより一層の充実を図る。
- ・挨拶励行や時間厳守、登下校のマナー等、規範意識を培う指導を組織的・継続的に行う。

(4) 特別活動

- ・学校行事については、生徒の帰属意識を高め、連帯感や達成感を得られるよう、きめ細かな指導を行う。
- ・文武両道の実践を目指し、学習と部活動の両立ができる生徒を育成する。

(5) 学校運営

- ・業務の効率化を図り、教員のライフ・ワーク・バランスの実現を推進する。
- ・本校及び本校の受験を考える生徒や保護者、地域住民が学校の教育活動について理解を深められるよう、更なる情報発信を行う。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
4	1	1			2	

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績なし。

8 その他

- ・アンケート回収について今年度は各年次の協力もあり、生徒をとおして保護者への呼びかけを複数回行った。その結果、昨年度と比較してアンケート回収率が約 10 ポイントアップした。次年度以降、生徒や保護者の回収率の更なる上昇に努めていく。